

徳之島事務所（令和7年7月分）管内情勢

農林水産業関連

1 さとうきび若手生産者が雑草防除対策を学ぶ

6月27日に農業開発総合センター徳之島支場にて、さとうきびの若手生産者等で組織するジャンプ会の総会と夏期研修が行われ、50人が参加した。

室内研修では、規模拡大を志向しているが農地が集まらないなど、昨年度行ったハーベスター所有者へのアンケート結果が報告された。現地研修では徳之島支場で行われている難防除雑草（ギニアグラス）対策試験の紹介があり、さとうきびの単収低下要因の1つであることから、生産者の興味が高かった。

2 たんかんの水管理や日焼け果対策、熱中症予防について周知

7月1～4日に徳之島町及び天城町にて、たんかんの幼木及び成木栽培講習会を開催し、生産者・関係者延べ95人が参加した。

今年度産は着果が少ない傾向であるが、樹齢が若い樹では着果が多い樹が見られ、摘果方法などについて指導を行った。また、今年は梅雨明けが早く梅雨時期の降水量が少なかったことから、水管理の徹底や日焼け果対策などを指導するとともに、熱中症予防についても啓発用チラシを活用して周知を図った。



3 沖縄県でピタヤの整枝方法や施肥管理について情報収集

7月10～11日に沖縄県読谷村及び沖縄市にて、ピタヤの他産地事例調査を実施し、生産者・関係者延べ11人が参加した。

沖縄県で糖度が高いピタヤを生産している2人のほ場にて整枝方法や施肥管理、苗の採取方法、販売方法などについて調査を行った。整枝方法では、立ち枝を紐で誘引して枝を下げることで、花が着きやすくなり単収向上に繋がるとのことであった。

当課では、情報収集した内容を基に、今後の栽培技術向上に生かしていく。



4 県内の女性農業経営士が徳之島に集合

7月10日～11日に徳之島にて、令和7年度県農村女性リーダーネットワーク先進地研修が開催され、県内の女性農業経営士63人を含む延べ76人が参加した。

研修では、徳之島地区の女性農業経営士（参画21とくのしま）が島内を案内し、会員が生産する茶や生産牛のほか、ピタヤ、コーヒー等の視察を行った。また、交流会では各地域の活動紹介を行い、組織運営のあり方や海外研修への要望が挙げられたほか、研修を通して女性農業経営士としての活動意欲が向上したとの声が挙げられた。



5 ばれいしょ後作のさつまいも生産を検討

7月15日に天城町にて、生産者、関係機関・団体延べ12人が参加し、ばれいしょ後作のさつまいも生産について検討を行った。

今回検討した品種は「あまはづき」で、無マルチ栽培で在ほ日数が約90日（4月9日、15日植え）経過したものの形状や階級、収量性等について検討を行った。また、「あまはづき」の品質特性の説明や焼き芋の試食も行い、概ね良好な評価であった。

今後、沖縄への出荷に向けた時期や出荷方法等の検討を行い、7月下旬から収穫を始めることとしている。

6 散水器具取扱説明会で畑かん水利用ルールを周知

7月15～16日に徳之島町・天城町・伊仙町にて、徳之島用水土地改良区による散水器具取扱説明会を行い、受益者及び関係者延べ104人が参加した。

スプリンクラーの調整方法や軽微な故障への対処方法など、散水器具を操作しながら説明を行った。さらに、今期の空梅雨下で指定日以外の散水などが散見されていることから、畑かん水利用のルールの周知も行った。

当課では、関係機関・団体と連携し、引き続き畑かん営農の推進、適正な水利用について周知していく。



7 新規就農者が指導農業士から就農や経営に関する助言をもらう

7月17日に徳之島事務所にて、就農5年以内の就農者を対象に第2回農業基礎講座を実施し、12人が参加した。

今回は、農業経営の基礎、先輩農業者による講話、認定新規就農者制度についての講義を実施した。先輩農業者講話では指導農業士を講師に迎え、就農から現在に至るまでの経緯や4Hクラブでの活動、経営安定に必要な取組についての助言がなされた。

当課では、引き続き指導農業士と連携を図りながら、新規就農者の支援に取り組む。

